

# 宮崎県感染症週報

## ■ 宮崎県第22週の発生動向

定点医療機関からの報告総数は1,034人(定点あたり31.2)で、前週比85%であった。

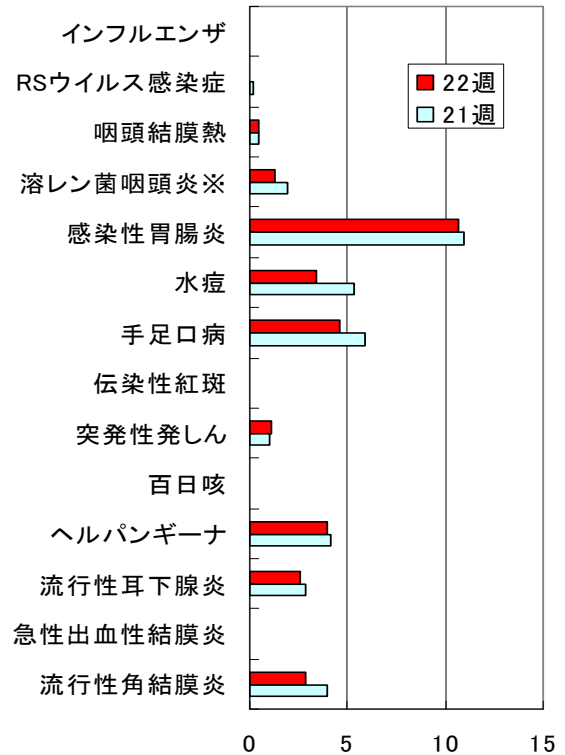
前週に比べ増加した主な疾患はなかった。減少した主な疾患は水痘と手足口病であった。

ヘルパンギーナの報告数は141人(3.9)で前週比95%とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点あたり平均値(1.7)と比較すると約2.3倍である。中央(19.0)、延岡(9.0)、日向(7.8)保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では1歳から3歳で全体の約8割を占めた。

手足口病の報告数は165人(4.6)で前週比78%と減少したが、例年同時期の定点あたり平均値(2.5)と比較すると約1.8倍である。日南(13.3)、中央(7.0)、都城(6.3)、小林(5.0)保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では1歳から3歳で全体の約7割を占めた。

無菌性髄膜炎1人が延岡保健所から報告された。患者は3歳の女兒で原因菌はMumps Virus。

《前週との比較》



《定点あたり報告数》  
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

## □ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年齢分布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
水痘	7	3.4	中央(9.0)	1歳~4歳で全体の約7割を占めた。
手足口病	5	4.6	日南(13.3)、中央(7.0)、 都城(6.3)、小林(5.0)	1歳~3歳で全体の約7割を占めた。
ヘルパンギーナ	6	3.9	中央(19.0)、延岡(9.0)、 日向(7.8)	1歳~3歳で全体の約8割を占めた。
流行性耳下腺炎	6	2.6	日向(10.3)、延岡(8.3)	3歳~6歳で全体の約7割を占めた。

## ■ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 6 例が宮崎市 (2 例)、延岡・日南・小林・高鍋 (各 1 例) 保健所から報告された。  
 《宮崎市保健所》・70 歳代の女性で腸結核。発熱がみられた。  
 ・50 歳代の女性で肺結核。咳がみられた。  
 《延岡保健所》・20 歳代の男性で無症状病原体保有者。  
 《日南保健所》・90 歳代の女性で肺結核。痰、発熱、呼吸困難がみられた。  
 《小林保健所》・10 歳代の男性で肺結核。発熱がみられた。中国での感染と推定される。  
 《高鍋保健所》・90 歳代の女性で疑似症患者。発熱がみられた。
- 3 類感染症 : 腸管出血性大腸菌感染症 1 例が都城保健所から報告された。1 歳の男児で嘔吐、発熱がみられた。原因菌の血清型は O157 (VT2 産生)。
- 4 類感染症 : 報告なし。
- 5 類感染症 : 破傷風 1 例が都城保健所から報告された。30 歳代の女性で筋肉のこわばり、開口障害がみられた。

## ■ 病原体情報 (衛生環境研究所 微生物部)

### □ 細菌 (平成 22 年 6 月 8 日までに分離同定)

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床診断名等	分離材料	分離同定日	衛研番号
<i>Salmonella</i> Enteritidis (O9:g,m:-)	0~4	女	5.18		便	5.26	10516
腸管出血性大腸菌(O111:NM VT1,2)	10代後半	男	5.13	下痢、血便、腹痛	便	5.21	10026
腸管出血性大腸菌(O126:HUT VT1)	80代前半	男	5.19	下痢(一日4~5回)	便	6.4	10027
腸管出血性大腸菌(O157:H7 VT2)	0~4	男	5.29	発熱、嘔吐	便	6.4	10028

- ウイルス (平成 22 年 6 月 8 日までに分離同定)  
 報告なし。

## ■ 全国第 21 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 18.1 で、前週比 99% とほぼ横ばいであった。今週増加した主な疾患は水痘とヘルパンギーナで、減少した主な疾患は伝染性紅斑と感染性胃腸炎であった。

水痘の報告数は 9,065 人 (3.0) で、前週比 158% と増加した。宮崎県 (5.3)、長野県 (4.5)、新潟県 (4.3) からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 4 歳で約 7 割を占めた。

ヘルパンギーナの報告数は 2,260 人 (0.74) で、前週比 142% と増加した。宮崎県 (4.1)、高知県 (2.8)、福岡県 (2.3) からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 4 歳で全体の約 8 割を占めた。

### □ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 335 例
- 3 類感染症 : コレラ 1 例、細菌性赤痢 4 例、腸管出血性大腸菌感染症 44 例
- 4 類感染症 : E 型肝炎 2 例、A 型肝炎 10 例、つつが虫病 6 例、デング熱 1 例、マラリア 1 例、レジオネラ症 4 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 11 例、ウイルス性肝炎 2 例、急性脳炎 5 例、後天性免疫不全症候群 15 例、ジアルジア症 2 例、梅毒 5 例、破傷風 3 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 2 例、風しん 1 例、麻しん 8 例

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第22週(05月31日～06月06日)

疾病名		第21週	第22週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	8	3			3						
	定点あたり	0.22	0.08	0.00	0.00	0.75	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	17	15	3	2	1	7		2			
	定点あたり	0.47	0.42	0.30	0.33	0.25	2.33	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	70	47	5	1	24	4	5	4		3	1
	定点あたり	1.94	1.31	0.50	0.17	6.00	1.33	1.67	1.00	0.00	0.75	1.00
感染性胃腸炎	報告数	394	383	91	61	29	56	37	46	11	41	11
	定点あたり	10.94	10.64	9.10	10.17	7.25	18.67	12.33	11.50	11.00	10.25	11.00
水痘	報告数	191	124	28	17	26	11	10	4	5	14	9
	定点あたり	5.31	3.44	2.80	2.83	6.50	3.67	3.33	1.00	5.00	3.50	9.00
手足口病	報告数	211	165	41	38	11	40	15	9		4	7
	定点あたり	5.86	4.58	4.10	6.33	2.75	13.33	5.00	2.25	0.00	1.00	7.00
伝染性紅斑	報告数	2	1		1							
	定点あたり	0.06	0.03	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	38	41	15	5	8	3	3	3		3	1
	定点あたり	1.06	1.14	1.50	0.83	2.00	1.00	1.00	0.75	0.00	0.75	1.00
百日咳	報告数		3	1		2						
	定点あたり	0.00	0.08	0.10	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	149	141	31	6	36	1	1	15	1	31	19
	定点あたり	4.14	3.92	3.10	1.00	9.00	0.33	0.33	3.75	1.00	7.75	19.00
流行性耳下腺炎	報告数	104	93	8	1	33		5	5		41	
	定点あたり	2.89	2.58	0.80	0.17	8.25	0.00	1.67	1.25	0.00	10.25	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	24	17	14	2	1						
	定点あたり	4.00	2.83	4.67	1.00	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数		1			1						
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週～22週)

2類感染症	結核	77例(6)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	12例(1)				
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	3例	つつが虫病	1例
	マラリア	1例	レジオネラ症	1例		
5類感染症	アメーバ赤痢	1例	ウイルス性肝炎	6例	急性脳炎	6例
	後天性免疫不全症候群	2例	梅毒	4例	破傷風	3例(1)
	麻しん	1例				

( )内は今週届出分、再掲

こども感染症情報

**手足口病の流行警報が発令されました。(5月31日～6月6日)**

手足口病の報告が増えています。今年は例年の同じ時期と比べると報告数が多くなっており、流行警報が発令されました。全国的にも報告数がかなり多くなっています。

この病気はウイルスに感染しておこります。夏に流行し、例年今の時期から感染者が増加します。主に2歳以下の子どもたちが多く感染します。手のひらや、足の裏、口の中、おしりなどに白っぽい水ぶくれができるのでこのような名前がついています。口の中の水ぶくれは痛みがあり食欲がなくなることが多いのですが、体にできた水ぶくれはかゆみや痛みがなく、しばらくすると破れることなく乾燥し消えていきます。熱が出ることもありますが、それほど高くはなりません。まれに髄膜炎や脳炎などの重い合併症のおそれがありますので、高熱が出たときにはすぐに医療機関を受診しましょう。

咳、くしゃみによる飛沫感染、水疱の内容物や便の中に含まれるウイルスに接触することで感染します。保育施設や家庭で集団発生することがあります。オムツ交換やトイレの後は、石けんで手を洗い感染予防に努めましょう。